

平成30年度 就労継続支援B型ペーパーミント事業報告書

利用者が施設の活動を通して自立した日常生活及び社会生活を営むことができるように就労の場を提供すると共に生産活動、販売の機会を広げ、能力・知識・技術を向上させる支援を行った。結果、利用者の工賃向上に繋がり、就労に対する楽しみや自信となった。

1. 事業の報告

(1) 就労における各作業班の報告

①パン作業

- ・新商品のパンに力を入れることで、多種類となり、多くのお客さんから喜びの声が聞こえた。新商品の形成は利用者にとって受け入れが難しく思えたが、職員の根気強い指導で特に問題なく取り組めた。今後も引き続き確実性や技術の向上を目指す。

- ・販売については、県の施設、高齢者の福祉施設、高校計2か所等他に販売箇所の拡大があり、特に福祉施設で給食、保育園の誕生日会等多くの注文があった。

販売員の接客マナーも明らかに向上し、手際よく対応が出来た。

工賃の支給額も大分の平均支給額を大幅に超えている。又、職員自身の積極的な販路拡大に努めた結果が工賃向上に繋がった。

利用者自身のパン形成に対する責任感や技術は明らかに年々、向上しており、一日の仕事の流れをつかむことができている。

- ・新商品として甘酒パン、シュークリーム、リンゴジャムパンに取り組み、購入者から好評の声をいただいた。

②園芸作業

- ・漬物（ナスの辛子漬け、きゅうりのわさび漬け、酢漬け、高菜漬け）は顧客に好評で、生産数すべてを完売した。

- ・自農園でブルーベリーを収穫。旬の時期には生で販売し、沢山収穫できるようになるとジャムへ加工することで心待ちにしている御客様から喜びの声が聴けた。

- ・農福サポーターの紹介により、施設外就労の作業としてカボスの収穫作業を行った。利用者も要領を得ているために予定通りの日数で収穫の運びとなった。

- ・個人との契約にてキャベツのシール貼りから納品までの仕事を1か月間程度ではあるが依頼され、取り組んだ。利用者自身作業の手際がよく次に何をすれば良いか理解できているのでスムーズに作業が行えた。

③室内作業

- ・昨年と同様にパン・バーガー・焼き菓子等を入れる袋の作成（シール貼り等）。

- ・ざびえる本舗、たかはし園、菊家、鶴亀フーズ、第一包装、若竹園からのしおり、箱折り、シール貼り、菓子の袋詰め等の委託作業に取り組んだ。

- ・医療廃棄物用の赤いビニール袋の紐通し作業を依頼され取り組んだ。半日ぐらいは作業に戸惑いがあったが、すぐに作業になれ、短時間に依頼された作業をクリアでき、急ぎ

の作業ではあったが、期限内にて納品ができ作業内容もとても丁寧にできたため依頼業者より感謝された。

(2) 生活訓練

①文化的活動

- ・日頃の作業での疲れをいやす目的で梨狩りを計画した。梨園で収穫や試食を楽しみ、実りの秋を実感することが出来た。又、自分の工賃を使い、ピザを食べに行った。バイキング方式だったことで自分の好きなものを取り寄せるがやや食べ過ぎ気味となった。

②健康・衛生面について

- ・利用者の健康を管理する目的で登園時には検温を実施している。流行性の疾患の蔓延を防ぐために家庭での状態を連絡帳等の利用で把握することができた。
うがいの励行や手洗い、水分の補給、各部屋の取っ手などの消毒、窓の開閉による換気等を行い暖房時には加湿器を設置し湿度の調整を行った。結果としてインフルエンザ等に罹患する利用者はいなかった。
- ・昼食後には利用者の歯磨き後に口腔ケアを行った。齲歯などを早く発見でき、保護者への連絡を行った。利用者の歯磨きに対する意識の変化もあり、口腔衛生の改善につながった。
- ・年1回成人病検診センター実施の健康診断を行っている。また、40歳以上の国民健康保険加入者は、市民検診にて対応した。健診結果にもとづき、看護師からの指導を各家庭に行い、診察が必要な利用者には指導を行い、受診を促した。
- ・利用者の高齢化に伴い、食事前に、口腔機能トレーニング（嚥下体操）を取り入れている。トレーニングに取り組む事で唾液の分泌を促し、またしっかりと噛んで食事を行うことができている。口腔機能の維持・向上につながった。来年度から言語聴覚士の派遣を試みる予定をしている。

(3) 地域交流

夕涼み会や餅つき・クリスマス会など地区の方との交流を密にすることに心がけた。地域にある施設だが、催し物への参加は限られた方のみになっていることが課題である。まだまだ開かれた施設づくりに力を注ぎたい。

(4) 福祉サービス相談

年2回の第3者委員を招集し、定例会議とその前月に相談日を設け、利用者の困っている事や日々の話を聞く機会を設けた。また、園生活や家庭での悩みや不満がある場合は、その都度、支援員が相談にのり不満や不安の軽減につなげた。

(5) 防災計画

月1回の避難訓練では、地震発生から火災などの2次災害を想定した訓練も取り入れ、地震時は机の下への避難、防災頭巾の着用の重要性、ガラス等が割れていることがあり、怪我を防ぐ為、裸足にならないなどを促した。避難時の集合場所を統一化（園の正門前）することも定着してきている。年2回実施している、総合防災訓練では、消防署などの関係機関から、実際の訓練の様子を見てもらい、利用者が職員の指示に従い、素早く避難できている点を高く評価された。